

『主役の男が女である時

ソロダンス
Quando l'uomo principale è una donna】

ヤン・ファーブル

演出・振付・舞台美術



ヤン・ファーブル Jan Fabre
1958年アントワープ（ベルギー）生まれ。アントワープ王立美術アカデミーで学んだ後、演劇と美術の境界を横断するパフォーマンス作品によってアーティストとしての活動を開始した。その活動は、パフォーマンスや演劇、ダンス、オペラ、脚本、造形美術と広範な領域にわたり、ベルギーのみならず海外でも、最も多才な前衛アーティストとして知られている。84年にベネチア・ビエンナーレで発表した「劇的狂気の力—Le pouvoir des folies théâtrales」は、現代演劇の先端に位置する前衛作として注目を集め、世界中で上演された。80年代から現在に至るまで、一貫して人間の肉体を探求の対象とし、アヴィニヨン演劇祭で発表された「私は血」（2001年）や王立モネ劇場で上演された「タンホイザー」（2004年）は国際的な評価を獲得した。2005年にはアヴィニヨン演劇祭に芸術監督（Associate Artist）として招かれた。

一瞬たりとも気が抜けない新体験

何らかの理由でオリジナル・キャストでの作品上演にピリオドが打たれた時、凡庸なクリエイターが真っ先に考えるのはそのオリジナルのエピゴーネンを見つけることだ。もちろんヤン・ファーブルは超非凡にして実験的行為が大好きな人間。長身でスレンダーなダンサー、リスペクト・グルウェーズに与えた『主役の男が女である時』に、誰も思いつかなかつた魔法をかけた。いわく、この類希なソロダンスの第二章の担い手として、前任者とは全く個性の異なるダンサー、スン・イム・ハーハを抜擢したのである。

彼女のお披露目公演となったストックホルムのクルチュールフセツト中劇場には年齢層の異なる観客が駆けつけ、今やヨーロッパの舞踊・演劇界の新しい伝説となった本作のあらゆる動きを見逃すまいと、息をひそめて待っている。そこに登場した小柄な若いアジア系女性。パンツスーツの衿元には胸を覆う黒いテープがのぞく。前任者グルウェーズが最初から両性具有的であるとしたら、彼女はダンスという芸の力を借りて、いったん女から男になり、その後、天井に吊るしたオリーブ・オイルの瓶からしたたり落ちる油の面積の増大につれて、今度は最初のフレンドリーでコケティッシュな人間と全く違う“女”という生き物に変身する。ダンサーとしての水準の高さは、着衣のままの踊りでもわかるが、スン・イムが見せるこの二段階のメタモルフォシス、実は作品の創り手であるヤン・ファーブル自身が一番最初に驚き、誰よりも興奮したのではないだろうか。つまり、優れた芸術は、いつの間

にかクリエイターの手を離れて独自の進化を遂げるという最もいい例。日本でも大ヒットしたダメニコ・モドゥーニョの「ヴォラーレ」とファーブルの盟友マールタン・ファン・コーワエンバーグの音楽が絶妙に組み合わせ、舞台の床面とダンサーの身体全体を覆いつくすオリーブ・オイルと共に、今まで見たことのない“ヒューチャー・ボディ”（ヤン・ファーブル談）の動きをサポートする。まるでカーリングのストーンのようにゆっくり床面を正座したままで滑っていくかと思えば、ドキュメンタリー映画『RIZE』の天才ストリート・ダンサー顔負けの激しい回転もあり。こうしたパフォーマンスを見ながらも、頭のどこかではヴァージニア・ウルフの『オルランド』や007シリーズまでを思い出したり、とにかく目まぐるしくも濃密な時間が過ぎていくのだ。

ラストのスン・イムのイタリア語での一言に、「その通り!」と思わず応えたくなる。完璧な作品!

佐藤友紀

佐藤友紀（さとうゆき） フリーライター、ジャーナリスト
早稲田大学卒業後、ベースボールマガジン社、編集プロダクション勤務を経て、フリーにて映画や、ダンス、オペラなどを含む舞台パフォーマンスの取材・評論を中心に執筆。様々な分野の人物インタビューも手がける。モーリス・ベジャール、ピーター・ブルック、ピナ・バウヌ、パトリック・シェローなど作品の追っかけ歴は20年以上。ストックホルムではヤン・ファーブルに本作品についてインタビューした。

『主役の男が女である時

ソロダンス
Quando l'uomo principale è una donna】

【日時】 6月30日（金） 開演19:30

7月1日（土） 開演16:00

2日（日） 開演16:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『主役の男が女である時 Quando l'uomo principale è una donna】 ソロダンス

【演出・振付・舞台美術】ヤン・ファーブル

【出演】スン・イム・ハーハ（本作品はリスペクト・グルウェーズとともに2004年に創作された）

【音楽】マールタン・ファン・コーワエンバーグ

ダメニコ・モドゥーニョ「ヴォラーレ」

【チケット（税込）】一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席2,000円

メンバーズ S席3,600円 A席2,700円

※ヤン・ファーブルとリスペクト・グルウェーズの意向により、出演者がリスペクト・グルウェーズからスン・イム・ハーハに変更されました。



—彩の国さいたま芸術劇場の今後の舞踊公演—

最注目のダンサー／振付家による奇跡のデュエット
アクラム・カーン／シディ・ラルビ・シェルカウイ

『ゼロ度 zero degrees』

【日時】 2007年1月12日（金） 13日（土） 14日（日）

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【発売日】 10月初旬（予定）

アヴィニヨン演劇祭を震撼させた衝撃作
ヤン・ファーブル テキスト・舞台美術・振付

『私は血 JE SUIS SANG』～中世妖精物語～

【日時】 2007年2月16日（金） 17日（土） 18日（日）

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【発売日】 11月中旬（予定）

